

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—
教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

教育環境の整備を進めています

市では、子どもたちが安心して学習できるよう教育環境の整備を進めています。これまでに校舎の耐震化を進めた結果、耐震化率は100%となりました(平成26年度末・西脇小と幼稚園舎を除く)。今後は西小木造校舎の保存改修、幼稚園舎の耐震化工事を実施していきます。

西脇小学校木造校舎は、県の景観形成重要建造物に指定されており、地域にとっても愛着のある建物です。市では、昨年度、この建物を保存改修し、引き続き小学校校舎として使用すると決定しました。今年度から基本計画、基本設計、実施設計を実施していきますが、西脇小学校校舎基本計画検討委員会の答申内容を尊重し、安全性、耐震性、防音、温熱、水周り、トイレ、バリアフリー等の学習環境、景観、歴史の継承、地域性、文化的価値等の社会的価値、費用面および施工性など、総合的な検討を行い、子どもたちが快適に過ごせる環境を創出するよう準備を進めていきます。

今年度は主に快適な学習・生活環境を創出するための改修を行うため、教育関係者、建築家、児童、文化財関係者など、さまざまな立場の人と協議しながら調査研究、基本計画および基本設計までを行う予定です。そして、平成28年度に実施設計を行い、平成29年度から31年度で保存改修等を行う予定です。幼稚園は認定こども園化に伴い、平成29年度から一園となり、平成29年度から一園化する幼稚園については、重春幼稚園に決定しており(3月議会)、平成28年度に耐震化工事等を行うための実施設計を平成27年度に行います。

その他の学校施設の耐震化および環境整備について

今年度は、トイレを洋式に改修する工事、太陽光発電設備の設置工事、非構造部材(体育館のつり天井および照明器具等)の耐震化工事などを実施し、さらに環境整備を進めていきます。

■問合せ 教育総務課
(市役所内線532)



景観形成重要建造物に指定されている西脇小学校

めぐりこらう 84

自然の恵みを人からへ

市では「西脇ファーマーズブランド」を通じて、市内産農産物の魅力向上、自然にやさしい安全、安心な農産物の生産拡大を進めています。

野生動物から農業を守る

野生動物による市内の農作物被害状況は14診、1,300万円です(平成26年度)。その大部分はシカやイノシシによるものです。

環境の変化で里山から出てきたシカが、農作物の味を覚え、繰り返し被害を引き起こすなど深刻な被害を起しています。市では猟友会とともに、平成25年度に521頭、



平成26年度にも469頭のシカを捕獲しましたが、繁殖力が高いため生息数を減らすまでには至っていません。

そこで、市では捕獲と同時に集落ごとの防護柵設置を進めています。昨年防護柵を圃場全体を囲む対策を行った黒田庄のある地区では、本年度の被害がほぼなくなりました。一方、土中の好物を捕食す

るため農地を穴だらけにするイノシシ被害も深刻です。各農家では、侵入防止用の電気柵の下部を地面の上に折り返し、イノシシが潜り込めないようにしたり、トタン板で目隠しをして作物を見えなくしたりする工夫で効果を上げています。市では一定条件のもと集落の電気柵設置に対しても補助しており、県の森林動物研究センターと協力しながら対策を行っています。今年度の市の獣害対策予算は3,500万円を超えています。獣害は生産者の意欲に関わる重大な問題です。被害のさらなる軽減を図り、農業を守っていきます。

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.119

詐欺被害解決をうたう業者にご注意!!

【事例】架空請求・アダルトサイトや投資詐欺等の消費者トラブル解決のため、消費生活センターをネット検索した結果、画面の上位に表示された相談窓口に電話すると、個人情報削除料を請求されたという相談が増えています。

「スピード解決、被害金を取り戻す、個人情報は削除できる」などと簡単に解決できるとおぼせる広告や説明をうのみにしてはいけません。詐欺被害回復のために事業者と直接交渉ができるのは、代理権を委任できる弁護士や司法書士だけです。行政書士や調査会社は被害解決のためのあっせんや交渉はできません。

消費者ホットライン

悪質商法や製品事故などの消費生活相談窓口案内「消費者ホットライン」が、7月1日から「188(嫌や!泣き寝入り!)」でつながるようになりました(西脇市は代表番号制のため西脇市役所内の消費生活センターを案内)。あきらめる前に解決できることもあります。おかしいと思った時には、お金を支払う前に証拠を残してなるべく早くご相談ください。



各団体の活動をPRするまちづくりフェスタ

市長からの手紙

西脇を元気に!!

西脇市長 片山象二

19

「地域自治ってなに?」まちごとミーティングを実施

「市内のまちづくり活動に携わる団体」が初めて一堂に会した「市制10周年記念事業・まちづくりフェスタ」が開催されました。西脇市では、自治会や各地区まちづくり協議会のほか、さまざまな市民団体が、まちづくり活動を展開されています。知恵を出し合い、汗を流して「参画と協働のまちづくり」をさせていただいており、心から感謝申し上げます。



大リーグ研究家「今里純」特別展~まちづくりフェスタ

さて、8月31日の比延地区を皮切りに、「まちかどミーティング」を実施します。私が市内全8地区を訪問し、地域の皆さんと直接、意見交換をさせていただくものです。今、日本は人口減少の時代を迎えており、西脇市も例外ではありません。そういった中、将来を見据え今後の地域自治のあり方について、市民の皆さんと一緒に考えたいと思います(広報と一緒に配布しているのがきにご意見をご記入ください)。

このまちに生まれたことを誇れる「西脇市」をともに創っていきましょう。ぜひ会場に足をお運びください。

心のスケッチ

78

人権教育室コラム

高齢者と人権問題について

「十年一昔」といいますが、40~50年前だと、60歳代の方に対して、失礼ながら、随分高齢だというイメージがあったのではないのでしょうか。それが今や日本は、世界でも最長寿命国となり「人生90年」になろうとしています。医療や食事、その他さまざまな環境の変化や生き方に対する意識の変化により、「高齢者」のイメージも変わってきたように感じます。

「意識の変化」といいますが、家庭、年金、仕事、趣味、農作業など、意識の持ち方についていろいろな角度から考えてみると、そのライフスタイルの多くには、まだまだ「人生60年」という考えやシステムが根強く残っているように思います。しかし、間違いなく、ますますご長寿で一人暮らしの方が増えていくことは間違いのないでしょう。そんな中で、高齢者の人権問題について考えたとき、上位には悪徳商法や詐欺による被害が挙げられます。次には、元気でまだまだ働く意欲や能力があるにもかかわらず、雇

用と待遇が十分保障されていないこと。さらには、家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないことがあります。認知症問題も含め、その他にもさまざまな問題があり、家庭や社会が一体となって、人権問題の解消に向け連携した取り組みが今以上に必要になってきます。

趣味や旅行、仕事、ボランティアによって生きがいを感じ、生活が豊かになるのは、すべての方に共通することです。高齢者だからといって制限されるものではありません。肝心なことは、高齢者の問題を将来の自分や家族の問題として、あるいは地域や社会の問題(防災や交流なども含めて)としてどう考えるかです。あらゆる人権問題において、常に自分を当事者として考えることが、人権問題解決への糸口となるのではないのでしょうか。

(人権教育室)